

Family



小野市立河合中学校 小野市三和町 983-2

学校評価と分析について

小野市立河合中学校長 坂本 敏裕

令和3年度も残すところ少なくなってまいりました。保護者の方には、この一年間、本校教育に多くのご協力、ご支援をいただき深く感謝申し上げます。

さて、学校教育活動に関する保護者とお子さまからのアンケートの回答をもとに、集計結果を分析し、今年度のふり返りと今後の取り組みの方向性について下記のようにご報告させていただきます。

アンケート結果の見方について

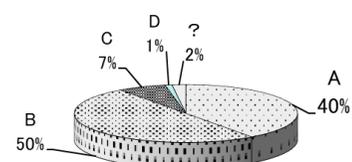
アンケートは 6～9 年生の保護者と児童生徒を対象とし、各質問内容について、「A=そう思う」、「B=ややそう思う」、「C=あまりそう思わない」、「D=そう思わない」、「?=判断できない」の選択方式で実施しました。分析は「A・B」を肯定的な評価と捉え、類似する質問ごとに総括し、主だった内容について取りまとめています。

1 家庭・地域への情報提供と連携

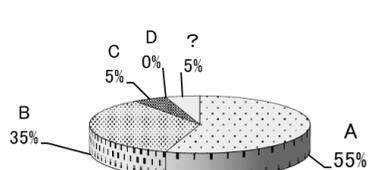
学校の教育方針や行事予定を毎月発行しています学校だより「Family」等でお伝えしてきました。学校のように保護者の皆様にお伝えすることを通して、教育活動へのご理解が深まるとともに、学校と保護者・地域の皆様が連携することでお子さまへの教育活動の効果も高まっていきます。10月には、河合地域づくり協議会の協力の下、グラウンドの除草作業を行いました。地域と共に育つ学校を感じることができました。来年度は、本校 HP の充実を図り、教育活動にご理解をいただけるよう、丁寧な情報発信に取り組んでいきたいと思っております。

連絡の方法として、学校のホームページと「スクール連絡網」を併用しております。今年度より「学校評価アンケート」については、スクール連絡網を利用し行いました。より多くの方の声をいただけるよう工夫していきたいと考えています。

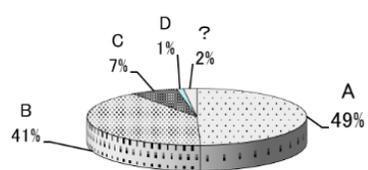
学校は教育方針をわかりやすく伝えている。(保護者)



学校は保護者の相談事について適切に応じている。(保護者)



学校は家庭への連絡や情報提供を適切に行っている。(保護者)



2 学校生活の充実度

学校での生活の充実度に関する項目は右のグラフの通り、前向きな気持ちで登校している児童生徒の割合が高いことがわかります。また、学習に取り組むようすも、保護者の方からの見方、子ども達自身の気持ちのいずれも高い評価を得ており、特に授業に意欲的であることがうかがえます。

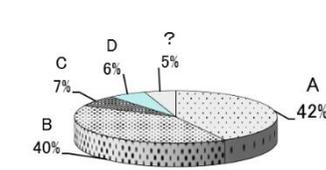
授業では、今年度からタブレット端末 chromebook が一人一台導入され、調べ活動や新しい表現方法の幅が増えました。児童

生徒は決められたルールを守りながら chromebook を用いて学習しています。これは ICT 機器を「使う」ことが目的ではなく、「思考を深めるため」に使っているということをよく認識していることの現れです。学年が上がるとともに、学習内容が増え家庭での学習習慣も重要になってきます。日々の課題とともに定期テストなどに向けた適切な課題の設定を通じて計画的に学習できる習慣作りを進めています。ご家庭でも時折お子さまのようすを見ていただければ幸いです。

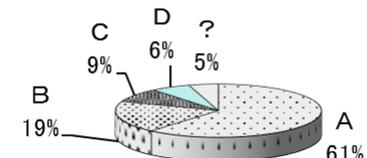
昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、中止になった行事や延期になった行事もありましたが、「学校行事への取組」については、右のグラフから、多くの児童生徒や保護者の方々が肯定的に評価していることがわかります。2学期に行事が集中し、あわただしい中での実施となった行事もありましたが、その中でも児童生徒は前向きに充実した取り組みができたこと、昨年度よりも保護者の方々にお子様の一生懸命な姿を見る機会があったことも、肯定的な評価に繋がったのではないかと推察します。

来年度以降もコロナ禍における学校行事のあり方について、引き続き検討することは必須であり、児童生徒の皆さんの安全・安心を第一に考えて行事を実施していきます。そして、ひとつひとつの行事が児童生徒の皆さんの成長につながる貴重な機会となるように、児童生徒が主体となる学校行事の実現を最優先にして、教員と児童生徒が協力して学校行事を作っていきたくと考えています。

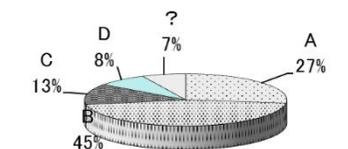
お子さんは学校へ行くのを楽しみにしている。(保護者)



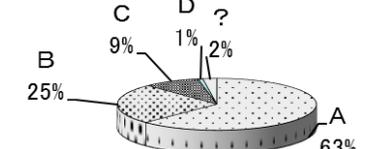
夢や目標を抱いて生活している。(児童生徒)



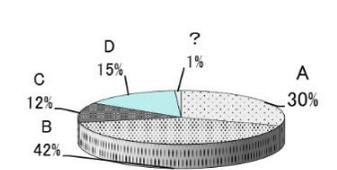
お子さんは、意欲的に学習に取り組んでいる。(保護者)



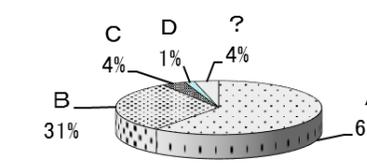
意欲的に授業に取り組んでいる。(児童生徒)



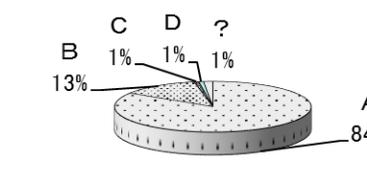
お子さんは家庭で勉強する習慣が付いている。(保護者)



ICT機器を使用した授業で、学習の意欲が高まる。(児童生徒)



合同体育祭や音楽祭等の学校行事は、楽しく充実した取り組みができた。(児童生徒)

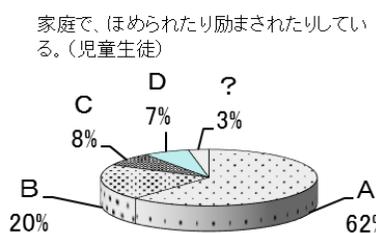
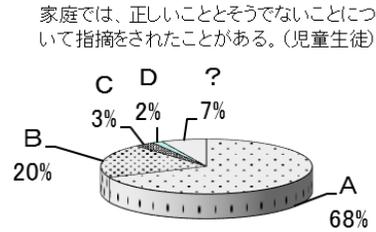
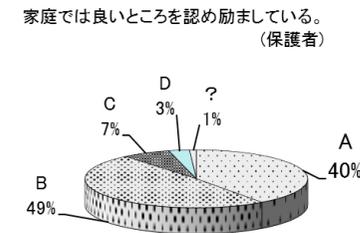
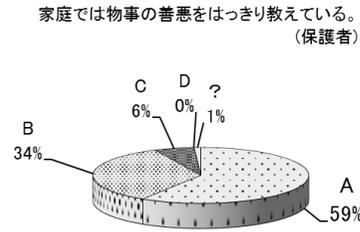


3 家族との関わり・家庭生活

家庭でのご協力あつての学校生活です。いつもありがとうございます。

コロナ禍の昨今、生活様式の変化もあり、ストレスや悩みが増えています。

ご家庭でお子様と話をされる中で、気になることがございましたら、いつでも学校にご連絡ください。



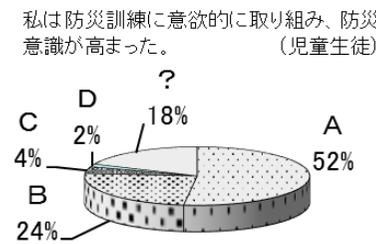
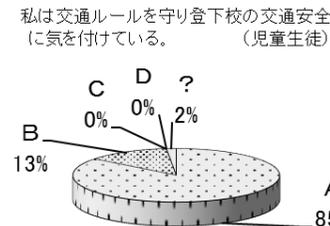
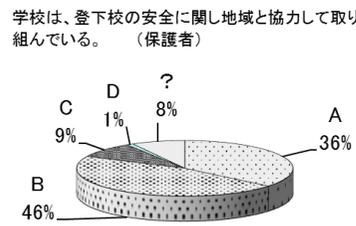
4 安全な登下校、防災訓練・防災意識の高揚

「交通ルールの遵守、安全な登下校(児童生徒)」の項目は、1 学期の自転車訓練や各学期の交通についての話を通して、並列走行等の危険な運転に対する安全意識が高まったように感じています。

しかし、今年度も何件か地域の方から「大声で叫びながら帰っている」などの登下校のマナーについて連絡がありました。並

列走行等の危険運転についての意識は高まりましたが、登下校で使用している場所が公共の場であるという意識がまだまだ低いということを感じています。教員も立ち番等の指導を継続して行なっていきますので、ご家庭でも登下校中のマナー等に関する話をしていただけるようお願い致します。

「防災訓練・防災意識」については、例年行っている防災訓練によって子ども達の防災意識が高まっています。1 学期に火災を想定した避難訓練、1月17日の「阪神・淡路大震災の日」には地震を想定した避難訓練を実施し、小野市防災リーダーの会の方による講演会を実施することができました。また、アレルギー対応の緊急時対応訓練や、教員間で AED や心肺呼吸蘇生訓練を実施しています。子ども達の安全を守るためにこれからも継続して取り組んでいきます。



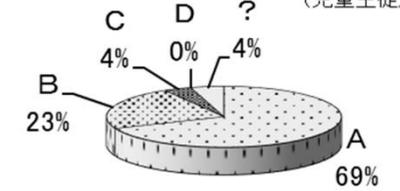
5 小中一貫教育の推進

河合小中学校が5・4制による小中一貫教育を始め今年で6年目を迎えます。当時1年生だった子ども達が7年生として中学校に通っています。児童生徒からは、「小学校から中学校教師の授業を受けることで中学校生活に慣れることができた。」について肯定的な評価が9割以上でした。

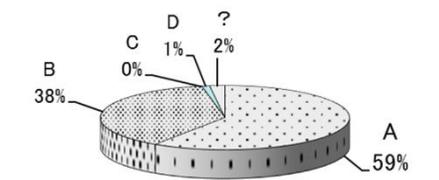
また、保護者の方からは学校の小中一貫教育の取り組みについて、積極的に行っているとの評価を多くいただいています。

これらの結果から、小中一貫教育が河合校区に定着している様子がうかがえます。これからも小中の教職員がさらに一体となって、「他者と共創し、主体的に学ぶ児童生徒の育成」という教育目標を目指していきたく考えています。

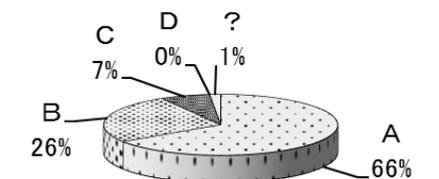
小学校時から中学校教師の授業を受けたことで、中学校生活に慣れることができた。(児童生徒)



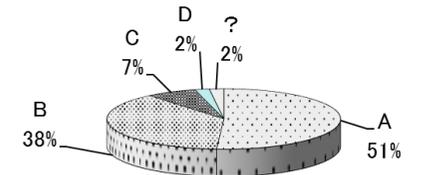
学校は、小中一貫教育に積極的に取り組んでいる。(保護者)



道徳の授業や人権行事で、人権意識が高まっている。(児童生徒)



学校は、人権行事や人権旬間などで人権意識を高めている。(保護者)



6 人権・心の教育

「人権フェスタ、人権旬間などで人権意識を高めている」の項目では、保護者のポイントが昨年に比べて「そう思う」から「ややそう思う」に動いています。今年も昨年度に引き続きコロナの影響で人権フェスタが人権弁論と授業参観の実施のみになってしまったことが残念です。しかし、肯定的な意見が90%を超えています。これは、児童生徒が人権旬間だけでなく、日々の生活や学習、行事の中で豊かな人権意識を高めている結果であると考えます。これからも、それぞれの学年で人権学習を充実させ、思いやりや心の豊かさを培っていけるよう進めていきます。

7 総括

保護者の皆様には、学校評価アンケートにご回答いただきありがとうございました。今回、ご回答いただきました項目について学校内で検証を行いました。本校の児童生徒は年々落ち着いた生活を送ることができており、それも家庭や地域の方々に支えられているためであると、アンケート結果より改めて感じることができました。そして子ども達のアンケートからも学校生活に前向きな気持ちで取り組んでいる様子がうかがえました。一方で来年度に向けたご意見もいただきました。保護者の皆様や地域の皆様のご期待に添えますよう教育活動の充実に向けて努力してまいります。今後とも本校教育にご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。